

D-13 幼児の手先の機能の発達に関する研究

布施女子短大 ○岡山 禧子

1. 幼児の手先の機能の発達の実態を調べようとして、(1)ボタンかけ外し能力、(2)豆はさみ能力、(3)紐結び能力、(4)図形模写能力の4項目に分けて測定したので報告する。

2. 3歳児20名、4歳児23名、5歳児23名について、個別に測定を行なった。

(1)ボタンかけ外しの測定には、布地、ボタン孔の方向(たてと横)、ボタンの寸法等により、それぞれ異なるヴェスト8種を作製し、これを着脱させて、所要時間、

使用指，かけ外しの順序等を記録検討した。(2)(3)(4)については具体的方法手続省略。

3. (1)の項目については，所要時間は年齢を増すに従って短縮され，特に3歳から4歳の間急速に短縮されていること，個人差は相当あること，ボタン孔の形式によって所要時間に差が見られること，女児の方が所要時間が短いこと等が分かった。

(2)豆はさみ能力については，幼児の用箸運動について指の状態，はさんで移した豆の数などの資料を得た。

(3)(4)の項目についての測定結果からも，幼児の手先の機能の発達の片鱗をうかがうことができ，4四項目の運動の個人的相関性についても検討したが，省略する。